

令和2年度仁木町地域おこし協力隊活動報告書

氏名	鈴木綾子	活動年数	2年
活動目標	ぶどう栽培、ワイン醸造の知識や技術の習得、有機農業や自然派ワインについての知識や技術の習得、農地の取得と畑の準備、ワインと食の組み合わせ研究		
活動内容	<p>3月末に仁木町西町に2.3ヘクタールの農地を取得し、4月から醸造用ぶどう栽培の準備を始めることができた。地元の農家さんのお力を得て、耕作放棄されていた桜桃のハウスを解体、残っていた桜桃と畑内の柳と銀杏を伐採、伐根、放置自動車を撤去し、約1ヘクタールの圃場を整地した。畑の隣接部分にあったプレハブ小屋（内部は半壊）と薪小屋になっていたガレージ（入口シャッター壊れ）を廃棄した。3棟ある納屋のうち1棟を地域おこし協力隊員に作業をお願いして修繕した。農地についていた宅地に建つ家屋はリフォームすることを計画し、12月にリフォームを終え入居した。5月には、近隣のワイン関係の方々のご協力を頂き、畑の測量と苗木の位置決め、5月中に苗木2,200本を定植した。6月からは苗木の育成作業が始まり、水やり、添え木挿し、芽欠き、誘引、草刈と一連の作業を秋の終わりの剪定迄続けた。</p> <p>6月からは北海道が主催する「北海道ワインアカデミー」の栽培と醸造コースを受講した。コースは6月から2月迄、両コースで14回の講義が、オンラインも交えて実施された。コロナ禍で道外研修がオンラインに変更されたのが残念だったが、道内の研修では三笠のぶどう畑や、空知、帯広等のワイナリーを見学した。</p> <p>秋からはリタファーム&ワイナリーの畑でのぶどうの収穫から除梗破碎、压榨、醸造用タンクへの投入作業、醸造作業、瓶詰、出荷作業などの研修を受けた。収穫から醸造開始の作業は2年目なので、作業手順を確認しながら行った。</p> <p>本年は、仁木町に農地と住居を取得できたので、近隣の農家の方々との交流を始めることができた。畑の整備にあたっては、地元の農家の方々や業者の方々からたくさんのお力を頂戴して、取得した農地の約半分を醸造用ぶどう畑にすることができた。</p>		
自己評価	<p>●一年間の自己評価及び進捗状況</p> <p>計画通りに農地と住居を取得し、夫婦協働で、地元の方々のご支援も頂きながら、約1ヘクタールのぶどう畑を作ることができた。北海道ワインアカデミーを受講してブドウ栽培とワイン醸造の知識を増やすことができた。</p> <p>●活動初年度からの自己評価及び進捗状況</p> <p>借り住まいを終えて農地に隣接する住宅に住み始め、ようやく仁木町に定住できた様に思える。ブドウ栽培も始めることができて駆け出しながら農家としてのスタートを切ることができた。</p>		

<p>抱負</p>	<p>残り半分の畑を整備してブドウを定植し、住居の目の前に広がるぶどう畑を眺めたい。</p>
<p>その他</p>	<p>令和2年度道産ワイン品質強化研修事業「北海道ワインアカデミー」修了 小型車両系建設機械（整地等3t未満）運転 特別教育修了 フォークリフト技能講習修了</p>
<p>活動写真</p>	<p>桜桃ハウスの解体</p>   <p>プレハブ小屋の撤去</p> 